



## HEART to HEART

### tea time

#### Information

#### 1~2月こうのとり外来の成績

#### 編集後記

## HEART to HEART

### 『40代になっての治療について』

〈Yさん〉

検査はしたのか・治療はしたのか  
世間からの心ない言葉で私の心は  
えぐられる思いだった



結婚して20年余りが経ち40代半ばを迎えた今、気持ちは若い一般論からいったらもう「おばさん」という年齢、回りを見れば早くも孫がいる人もいれば更年期の治療に通っている人もいる、そういえば確かに体力は落ちてきたように思う。でも私は不妊治療を卒業してはいない。

結婚して2年過ぎた頃から治療を始めた。検査をしてもこれといった原因は見つからず内服や注射での治療を続けていたが、毎月の生理はきちんと訪れ期待はもろくも打ち砕かれる。横から聞こえる幸せそうな妊婦さん達の会話に、おのずと自分を比較してしまいみじめに思えて涙の溢れる夜もあった。それでも毎月通院を続け4年が過ぎた頃、「体外受精（まだ始めて間もない最先端の治療法であった）をしてみないか」という先生のお話に思いきって挑戦してみることにした。その頃はこういった治療を受けられる施設はごく限られており自分達は片道6時間を要する場所へ行く事となった。採卵の周期に入ると10日間程のホテル生活となるのだが、知らない土地で1日にやることといたら診察か注射に通うだけ、とにかく時間をつぶすのが苦痛だった。採卵時には卵の数が少なければ麻酔は無し、麻酔をしたとしても痛みは間逃れない。出産の時はこんなものではないのだから大丈夫です、と強がってはいたもののあれは何回やっても慣れるものではなかった。こんな形での治療を年に2~3度、5年間継続した。その間に私の精神は疲れきってしまった。

対人恐怖症になり玄関の外をうかがわなければ外出が出来ない。隣近所の人がこどもの話などしようものなら、そういうことを避けて生活出来ないとわかっているだけに、切なく、また激しい自己嫌悪にさいなまれた。そんな状態になった私は、夫との話し合いの末に「2人だけの人生もあるから」と不妊治療を辞める決心をしたのだった。

『こどもがいない』これは日々の生活を送っていくにあたり、いや生きていくにあたり、あまりにも大きすぎる事実だ。自分達の生活設計も大きく狂い、生き甲斐をも見失ってしまう。何かの集まりに出席すればこどもの話題になるのは必至で予先が自分に向くと、「検査はしたのか・治療はしたのか・こういう薬があるとかこの病院で誰々はできたから行ってみたら・・・」とか、いろいろと言ってくれる。こういう事は一生続くのだろうと悟ってはいても、その度に私の心には深く突き刺さり、えぐられる思いになる。

あのやわらかで気持ちのいい感触を夫には一度も味あわせる事ができない、夫の遺伝子は葬られてしまうのか、夫が死んだら生きていても仕方がないから後追い自殺でもするか、などとバカな

ことも考えた。

『どうしてこどもがいないんだろう。親になる資格がないっていうこと？神様は私達を親としては認めてくれないの？しょうがないじゃない、これが現実なんだから・・・』一人心の中で思いは巡り、涙が止まらなかった。

しかし治療を再開することには踏み切れず、7年の月日が経っていった。

そんなある晩、夫がこんな話しをしてきた。「年齢からいってこの時期を逃したらチャンスはないと思う、治療方法も進歩しているだろうし、後悔しない意味でももう一度挑戦してみないか？」そんな言葉に自分でも不思議だったがすぐに素直に「そうだね」と答えていた。今まで心にひっかかっていたことが、これで解決できるような気がしたのかもしれない。それから病院探しが始まり、こちらの病院を最後の砦と門を叩き、2年目になる。

初めて諏訪マタを受診した時は緊張しまくっていて、問診用紙の書き方がわからなくなってしまったり、受付の方の説明にも返事はしているものの何が何だか、「ポスト？ポケベル、エッジを押すって？ワーどうしよう！」とそんな感じで順番を待ち、診察室に入るとこれまたクール!?な感じの先生が目の前に。しかし先生はこれまでの経過を聞き最初から私達の希望どおり体外受精をしてくださった。時々見せてくれた笑顔にほっとしたことを覚えている。そして採卵、これが「痛くない！」のだ。なんて楽なんだろう。これなら何回採卵しても大丈夫、そんな気持ちにさえなってしまった。

私の年齢から時間的に無駄のないような方法で治療をして下さっているにも関わらず今まだ成果は得られていない。なかなか私の子宮は頑固なようである。結果を夫に報告する時はいまだに辛い。そんな中相談室で話を聞いていただき、いままで思いっきり肩に力を入れていたことに気づき、優しい心を教えていただいた。本当に感謝しています。相談室には特別な空気が流れているようで、とても気持ちが楽になりいつまでも居てしまいそうだが、毎回、他の患者さんもいるのだからと思いきって席を立ち部屋をあとにする。自分と同じ年代の方々が多く頑張っている話も聞き、今回ここへ私の体験を載せる話を受ける事にした。

私達夫婦が、いつ治療を卒業するのか？これは本当に難しい。だってまだ私の卵胞は育っているのだから。

〈Mさん〉

40過ぎて妊娠しても大変なのでは？  
という心配の声もあるが、そこは私達二人の問題、二人がよければそれでいい。だって二人の願いなのだから



結婚して10ヶ月、といっても再婚で、6年の結婚生活とその後7年のシングル期間を経て今42才の私です。前の結婚生活でも別の病院で不妊治療をしていたため、再婚が決まってすぐに今の自分に妊娠の可能性があるものか知りたくてこの不妊外来を訪れました。二度の筋腫のおいで院長先生にはお世話になった事があったのですが吉川先生とは初めてでした。説明会を受け夫と相談しすぐに体外受精でやっていく事にしました。現在までに8回挑戦して1回採卵でき2回戻す事が出来ました。

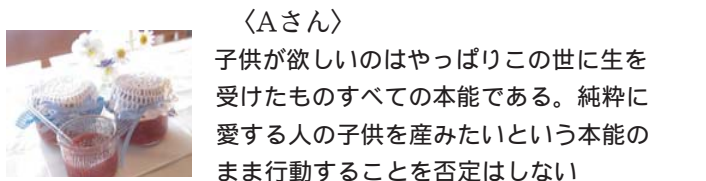
今回の周期は久々に卵が育ち、取れそうなのでほっと胸をなでおろしています。そしてただだ、このまま進んでくれる事を願っています。

夫は最初から「先生が出来ないと言うまで続けよう」と言ってくれています。しかし私自身はこう思うように卵が育たず、取る事ができない状態が続くと諦めの気持ちが強くなっているのも確かなのです。そして、それを口にしてみても「少しでも可能性があるなら・・・」と返してくる夫。そういったやりとりの中で、大丈夫かも、という気持ちと、やっぱりダメじゃないかという気持ちの両方を行ったり来たりでいつもいつも揺れてしまうのです。

治療の為に仕事を休む事が多くなり、それに疲れを感じた私は昨年の秋仕事を辞める事にしました。しかし今度は逆に時間を持って余すようになり考える事と言えば子供の事ばかり。焦った所でどうしようもないことはわかっているがあがくようになりました。そんなある日、廊下に出ていたこのこのとり新聞を見て相談室へ飛び込んだのです。そこでは小さな不安が大きな不安になってパニックしていた自分の心の中を交通整理してもらったような時間を過ごせました。それから時々訪れては元気が優しさをもたらしています。

姑に、“孫の顔は見たいのもあるけれど無理はしないで身体を大事にしてね”と言われると、その言葉に悪意が無くともつい深読みしてしまう私。夫に対しても、相手が私でなければこんな思いをさせなくて済んだのかも・・・しかし夫は「相手がお前でもともこうしていたかもしれないし、すんなりできていたのかもしれない。でも、出来にくい事は承知の上で一緒になった訳だし、それはそれで受け止めてやっていくさ。俺はお前と結婚したいと思ったんだからそれでいい。子供が出来なかつたら犬でも飼うか」と笑って言うてくれました。出会いの遅かった私達だから、これからこの先も健康で、一緒に居られる事がなによりか、とも話しています。そんな夫には言葉にならない程感謝の気持ちでいっぱいです。

40過ぎて妊娠しても大変なのは?という心配の声もありますが、そこは私達二人の問題、二人がよければそれでいいと勝手に思っています。そう、二人の間に子供が授かれればいいという事こそが二人の願いなのだから、それに向かってできる限りの努力をしていきます。それをどこで区切りにするのか、可能性が残されている内は『現実的』には考えられません。たまにしか出来なくても卵の育つ内は可能性だと信じています。妊娠して、出産して、子育てをしている自分の姿をいつも思い描いている私がここにいます。病院へ足が向かなくなるまで、今はとにかく生理の2日目に気合いをいれて強気で行くこと。モヤモヤとした気持ちになったら相談室のドアをノックし自分の気持ちを確認していきたいです。その繰り返しこそが、私のベストな治療法だと思い歩いていきます。



〈Aさん〉  
子供が欲しいのはやっぱりこの世に生を受けたものすべての本能である。純粋に愛する人の子供を産みたいという本能のまま行動することを否定はしない

結婚して丸14年、不妊治療歴12年半。そして‘不惑’と言われる年を迎えてしまいました。「不惑」って惑わないことではよ?とんでもない!今の私の心には‘惑わない’どころか「悶」の漢字がぴったりと当てはまります。

「不妊」という現実突き当たってこれだけ長い年月が経つと、確かに表面上はかなり変化してきています。いろいろな場面で出くわす「子供さんは?」の問いかけに「いえ、いないんです」とさっと答えられるし、近い人たちの「早く子供作らなきゃダメじゃん」の心ない激励にも笑顔で切り返すことができるようになりました。年賀状の「子供が産まれました」の文字を見るのが怖くて正月が来るのが苦痛だったのも、最近は淡々と受け入れられるようになりました。夫婦2人の生活もすっかり定着し、それなりに楽しみを見つけながら穏やかに暮らしています。でも!でも!!!子供を授からないことに対する苦悩が減ったわけでは決してありません。むしろ、年を重ねる毎、若い頃にはあった‘希望の灯’が弱く小さくなっていくのを感じ、内臓をねじられるような感覚、正に「苦悶」という言葉がぴったりなのが今の私の心なのです。

その苦悶する心を一番大きな割合で占めているのが、このまま治療を続けていていいのだろうかという迷いです。現在私達夫婦の生活サイクルは、繰り返される体外受精による治療が中心になっています。でも、長くやっていると心にも体にも負担がかかるし、経済的な面の負担もバカになりません。また、夫は私より更に3歳年上。今すぐ子供に恵まれたとしても、その子が高校卒業前には夫は定年退職を迎えることとなります。こんな年をとった両親では子供がかわいそうではないかしら?いえ、それ以前に育てられるのかしら?という思いは常につきまとっています。

合わせて私自身の人生についても考える時も気持ちが揺れ動きます。30代半ばにさしかかったとき、不妊治療のためそれまで頑張ってやってきた仕事を辞めました。そのこと自体に後悔はありませんが(というより、後悔したくないのですが)、定職がなくアルバイト的な仕事を細切れにしている今、もう1度社会に出て思いっきり働きたいという思いも強くなっています。子供を授かることのないまま人生を終えていくのであれば、私の生きた証は何になるのだろうか。せめて仕事を通してでもいい、私という一人の人間が生きたという印をどこかに残したい。そんな思いと裏腹に、現実には求人年齢制限があるところが多く、40歳の今が残りの人生をかけるような仕事に出会えるラストチャンスではないかしらという焦りが出てきてしまうのです。

また、こんな疑問もあります。「私は、本当に子供がほしいのかしら?」もちろん、熱望していますよ。でも、それはなぜ?子孫を残したいから?子供が好きだから?ただ妊婦になりたいの?時々自分で自分がわからなくなるときもあるのです。自分自身の「欲しい!」という気持ちよりも、もしかしたら跡継ぎを切望している夫や両方の両親の期待に応えなくちゃいけない。いい妻であり、娘であり、嫁でありたい。自分を認めてもらいたいがため子供が欲しいのではないかと・・・今年に入って、この私達の「悶える」気持ちに拍車をかける出来事が起きました。

今までずっと独身でいた義弟が、できちゃった婚になったのです。妊娠についてはおめでたいことなのだから喜んであげなくてはと思いつつも、私達夫婦がどんなに望んでもかなわなかったことを、偶然の形であっさりと手に入れてしまった彼らに対し、素直に祝福の言葉を贈れませんでした。また待ちに待った次男の嫁と孫と一緒に出来ることを知った義父母は、もちろん大喜び。私の前では気をつかってくれている事を感じながらも、何気ない言動の一つ一つの中にその喜びの大きさが伝わり跡継ぎを産めない私の心は「悶」の状態から抜け出せなくなってしまいました。そして私は、私の中に湧いて出ていたいくつものざわざわした気持ちをこんな様に納める事にしました。

『子供が欲しいのはやっぱりこの世に生を受けたものすべての本能である。どんなにうまい言葉で美化しようが、今を生きるものとして純粋に愛する人の子供を産みたいという本能のまま行動することを否定はしまい』と。

私には、すてきな財産がた〜くさんあります。信頼し最後まで任せてみようと思える、ここ諏訪マタのスタッフの方達がいます。相談室では話を(いえいえ愚痴を)聞いてもらえます。自分への応援歌も見つけました。平原綾香のJupiterの中の「夢をあきらめるより悲しいことは、自分を信じてあげられないこと」という歌詞。私の心が悶え苦しんでいても、私の体は素直に治療を受け入れ、毎回妊娠の可能性を生み出してくれているのです。大丈夫。もう少し、自分を信じてあげましょう。それとミーハーでちょっぴり恥ずかしいのですが、ドラマ「ごくせん」の中で、仲間由紀恵扮する高校教師「ヤンクミ」が言ったセリフも財産の一つにしました。「今までがダメだったからって、これから先もダメだなんて決めつけるな。お前には未来があるんだから私にだって、未来はありますよね。そうそう、愚痴を「フンフン」と聞いてくれて、たまに辛口な批判をしてくれる友達もいます。年齢も、置かれている状況も全然違うのですが、どんなことでも話せる存在です。荒唐治療が多いのですが、私の心のバランスを陰から陽に変えてくれる、不思議な力の持ち主です。

そして・・・そう忘れてはならない、何よりもかけがえのない財産。互いをいたわり合いながら一つの人生を歩める夫がいます!これからどんな人生が待っているにせよ、互いがそれぞれ相手を「何よりも大切な存在」と胸を張って言える夫婦であり続けたいと思います。まだまだ、私に力を与えてくれる財産たちはたくさんありますが今はこの財産を放棄しない限り、私の治療は続いていくと思っています。情けない40才かも知れませんが、これが私、そして私達の人生です。

「惑う」「苦しむ」「悶える」でも怯むことなく歩いていきます、いきたいです。

「望む」「願う」「信じる」人生に、ひたむきでありたいです。

## information

相談室にポストがつかました

相談室への入りにくさの解消のために、診察室同様にポストを設置する事に致しました。相談室をご利用になりたい方は、まずカルテをポストに入れて頂き、すぐ横にあります番号札をお取りください。そして、順番が来ましたら、電話を致しますので、お手持ちの札を相談室のドアの所に差し込んでお入り下さい。判定などでカルテがない場合はノックして下さい。



ちょっとお茶でもいかがですか?  
日頃皆さんの思っている事やつぶやきをのせていくコーナーです。

✿ K・Fさん ✿

結婚してもうすぐ6年目に入ります。結婚した年齢が遅かったのもあるのか、回りにやたら「子供は?」「子供できたらかわいいよね」など子供に関する言葉ばかりかけられました。3年くらい会う人会う人に言われて、もう言われすぎてうんざりでした。回りは悪気は無いのですが、ほしいと思っているのにできない私にとってはその言われ方は攻められているように感じてしまっていました。回りに40才を過ぎてても子供のできた人も何人かいましたし、結婚すれば子供はすぐできるものと思っていました。しかし高齢での出産は大変とか妊娠中でもリスクがある、年齢を重ねるとできにくいと言うことを知り、友人の「一度調べてみたら?」の勧めで諏訪マタへ診察に来ました。自分でもその気になって治療を始めた矢先に、知り合いの男性から「何で子供を作らないんだ!今時の若いもんは、子供がいない方がいいなんて何事だ!」と説教されたのです・・・あまりの言い方にびっくり!ショックで逆ギレした私は「すみません、子供できにくいって医者に言われてるんで・・・」と言ったら「え!そうなんだ」とその人はあたふたしていました。それにしても、かなり傷ついた言葉でした。子供がきらいではなく、欲しくて欲しくてしょうがないのに・・・家に帰って涙が出てきました。まだまだ世の中にはできなくて悩んでいる人がいるって気がつかない人が沢山いるのですね。このごろは「お子さんは?」と聞かれると、「欲しいんだけどね」と返事をすることにしています。

## 1月~2月このとり外来の成績

妊娠 36人	採卵 胚移植	182人
[IUIを含む]	妊娠	143人 59人

